

震災の記憶 風化させない

東松島市

「まちなかアーカイブ」スタート

東松島市は、市内の飲食店や病院、公共施設などに貼ったステッカーに印刷したQRコード（2次元コード）を入り口にして東日本大震災の被災状況や市民の被災体験談を携帯端末で見られる「まちなか震災アーカイブ」をスタートさせる。震災の記憶を風化させず後世に伝えようと、市図書館が中心になって取り組む「地域の絆保存プロジェクト」の一環。ステッカー設置事業所マップに加え観光情報などを盛り込んだパンフレットも作成し、地域活性化につなげたい考えた。

■市図書館が中心

保存プロジェクトは2012年6月に始まり、市民の協力で集めた被災体験や映像などを市図書館ホームページ（HP）の「震災の記録」コーナーに掲載している。これまでにアップされた写真は約1万枚。市民に語り部を務めてもらった体験談の動画は20本（1本約15分）になった。

「まちなか震災アーカイブ」は、より多くの人に震災の記録を見てもらう仕掛けの一つ。飲食店などでの待ち時間やタクシーでの移動時間などに、スマートフォンなどの携帯端末を使って手軽にHPにアクセスできる環境をつくった。

ことし7～8月に市内タクシー会社の協力で試行的にスタート。同時に協力事業所の募集を始め、

ステッカーのQRコードから



被災状況や体験談が見られる

東日本大震災
2011.3.11

震災の伝承

QRコードを携帯端末で読み取ると東松島市の東日本大震災の状況を見ることができます。
なお、通信料は自己負担となりますのでご注意ください。

2011年3月11日
http://www.jib-city-ha.jp/ja-0392/Theater/0392/tep.html

あの日を忘れず
ともに未来へ
May we always remember that day,
and look toward the future.

東松島市図書館
TEL0225-82-1120

飲食店や病院、銀行、民宿、観光施設などが加わり、協力事業所は52に上った。既にステッカーの掲示を始めた事業所もあるが、全てに配布が終わるのは今月末の見込みという。

協力事業所の所在地によってQRコードを変えて、アクセスした地区の検索メニューが最初に出るように工夫した。被災直時に加え、復旧が進んだ後の写真もあり、利用者がより「現場」を感じられる仕組みにした。

市図書館の加藤孔敬副館長は「現在は21地区180分類だが年度内に400分類まで細分化したい。写真は2万枚のアップを目指す」と説明。協力店マップ付きのパンフレットも年度内に作り配布する予定だ。「被災地見学の再訪にもつなげたい」と期待する。

協力事業所の募集も継続中。連絡先は東松島市図書館0225（82）1120。

病院や銀行など52事業所協力